

高崎から前橋、そして足利へ

昨年の12月初旬、公立大学協会の人文系部会というのが前橋であり、はじめて群馬県を訪れた。東京から新幹線で高崎まで行き、高崎市役所に立ち寄った。とくに目的があったわけではないが、前から高崎に行ってみたくて、時間もないので地図をたよりに市役所に向かった。写真は市役所の全景である。とにかく立派な建物に驚いた。どっしり聳え立つ感じであり、近づくのに戸惑いを覚えた。時間もないので、とにかく最上階まで上がった。遠くは浅間山噴火の煙まで見ることができ、眺めは抜群であった。下の写真は前橋のほうに向けて撮ったものだ。高く聳えているのが会議の会場である群馬県庁舎である。



庁舎の「すがた」から、その自治体の顔が見えてくることが多い。市役所とそこから見た群馬県庁の「すがた」から、高崎市と前橋市との対抗意識のようなものを感じた。人口は県庁所在市の前橋市のほうが多いが、高崎市は新幹線が通り経済活動も盛んである。



眺めの良い群馬県庁での会議を終えて、翌日は足利市に立ち寄った。遠回りして東京に戻る途中で、足利市に途中下車した。鉱毒事件で有名な渡良瀬川を渡って、日本最古の学校である「足利学校」などを駆け足で回った。そして関東平野の風景を眺めながら、東京に向かった。

(1月26日 記)